

政大臣宇治真木島山莊

〔増鏡^五内野の雪〕寶治二年十月廿日ころもみち御らんじがてらうぢに御幸し給原兼經のやせつし御程也やうのかんだちめ殿上人思ひく色くのかり衣あはきくもみちのこさうすきぬひ物おり物あやにしきかねてより世のいとなみなり廿一日の朝ぼらけにいさせ給御えぼうしなほしうす色のうきおり物の御さしぬきあぞるびさしの御車にたてまつるまづ殿上人下臈より前行す略○中けびぬし北面などまで思ひくにかでめづらしきさまにとこのみたるはゆしきけむふつにぞ侍し略○中建久に後鳥羽院宇治の御幸の時修明門院后重子○後鳥羽そのころ二條の君とてまゐり給へりし例をまねばるゝとぞ聞えける略○中うぢ川のひがしのきしに御舟まうけられたれば御車よりたてまつりうつるほど夕つかたになりぬ御舟さし色々のかりあをにて八人づゝさまくゝなりもどゝの中將院の御はかせもたるあきとも御まぢまゐらす平等院のつり殿に御舟よせておりさせ給ほん堂にて御誦經あり御だうしまかでのちあみだだう御きやうざうせんぼう堂までことく御らんじわたす川の左右のきしにかゝりまろくたかせて鶺鴒かひどもめす院の御まへよりはじめて御臺どもまゐるまろがねのにしきのうちしきなどいときよらにまうけられたり陪膳權大納言すけやくそ殿上人かんだちめには御臺四本殿上人には二なり女房の中にも色々さまくの風流のくだ物ついがさねなどよしあるさまになまめかしうまなしてもてつきたることまかにうつくし院のうへ梅つぼのはなちいでにいらせたまふ攝政殿左のおと兼平○藤原みな御どもにさぶらひ給又の目のくれつかた又御舟にてまきの島梅の島たちばなのこ島など御らんせらる御おそびはじまる舟のうち樂器どもまうけられたれば吹たてたる物のねよにまらず所がらはましておもしろうきこゆるに水のそこにもみゝとむる物やとそゝろさむきはまなりかのうばそくの宮のへだてゝみゆ